

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		3,006	t-CO ₂
（温室効果ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		3,006

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
温室効果ガス総排出量	2,920	t-CO ₂	2,832	t-CO ₂	2,841	t-CO ₂	2,912	t-CO ₂	3,006	t-CO ₂
削減率（対基準年度）			3.0	%	2.7	%	0.3	%	▲ 3.0	%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対基準年度）						%		%		%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
原単位あたりの排出量										
削減率（対基準年度）				%		%		%		%
原単位あたりのみなし排出量										
削減率（対基準年度）						%		%		%

(2) 進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

熱源機器、空調機の運転見直し、照明のLED化等省エネに取り組んだが、夏季の気温上昇により冷房不可の増大で電気、ガス使用量が増加した。今後はさらなる運用改善に取り組んでいきたい。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
 備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。
 備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
一般管理 (エネルギー使用量等の把握及び管理)	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー使用量の記録・分析して使用実態を把握(消費量 独自の見える化表作成) ・設備運転管理方法 管理標準で運用 ・熱源運転管理(中間期での適切な熱源、空調等運転管理) 	データを可視化し、得られた情報を機器の運用や更新計画に活用する。	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギーの使用量を毎月データ化し見える化を図り運用 ・FCU、AHUの冷暖運転において状況に応じた運用を実施
省エネルギー・省資源の推進 (冷暖房)	<ul style="list-style-type: none"> ・温度の管理(冷房28℃、暖房19℃) ・全居室の空調リモコンへ節電協力シール貼付 ・ブラインドの活用、1F待合 窓ガラスへのよしず設置による日射負荷の減少(夏期) ・扇風機やサーキュレーター活用 	適正な温度設定がされているか定期的に確認する	<ul style="list-style-type: none"> ・室内温度が適温になるように運用実施 ・各空調リモコンの室内設定温度の協力呼びかけシールを貼付 ・夏期に1F待合窓ガラスへよしずを設置
省エネルギー・省資源の推進 (設備運転の効率化)	<ul style="list-style-type: none"> ・コージェネの適正運転(排熱需要時間帯を考慮した運転) ・熱源機を1H前に運転停止し余熱を利用し運用する(中央方式の熱源) ・扇風機やサーキュレーターの活用 	各設備の無駄のない運用を徹底する	<ul style="list-style-type: none"> ・コージェネの排熱を利用する冷水機を積極的に運転する。 ・診察室等に扇風機を設置 ・負荷に応じて必要な二次ポンプ台数を変更し無駄のない運転を実施
省エネルギー・省資源の推進 (点検及び運転管理の適正化)	<ul style="list-style-type: none"> ・外気取入量の管理による空調負荷軽減 ・外気温度や室内環境をチェックし熱源や空調機の間欠運転(主に中間期) ・フィルター清掃、ベアリンググリスアップを定期的に行う 	実施状況を定期的にチェックし確実に実施する	<ul style="list-style-type: none"> ・中間期における外調機の運用を優先し熱源機器運転時間削減 ・空調フィルター清掃チェック表を用いて計画的に実施 ・冷水温水設定温度を外気に合わせて変更する
省エネルギー・省資源の推進 (高効率機器への更新)	<ul style="list-style-type: none"> ・機器の取替・更新時は高効率機器を指定 	機器更新時には、高効率型を選定する	<ul style="list-style-type: none"> ・機器の更新時には、高効率型を推奨する予定 ・Vベルト交換時が省エネベルトにする
省エネルギー・省資源の推進 (照明・FCU)	<ul style="list-style-type: none"> ・昼夜 不必要な照明を消灯 ・LEDへの更新(順次) ・診察終了後の待合照明・空調停止連絡の徹底 ・間接照明を実施する 	LED順次変更 ※点灯時間が多い箇所から順次交換 (病棟ナースステーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・外来終了した箇所から随時消灯を実施 ・日の出、日の入りに合わせて外灯消灯時間の変更 ・誘導灯をLEDへ変更実施
省エネルギー・省資源の推進 (OA機器)	<ul style="list-style-type: none"> ・電源オプションの設定でパソコン消費電力を抑える ・退勤時や使用しないパソコンは電源オフを周知徹底 	独自の省エネニュースを作成し、院内配布周知させる	省エネニュースを作成し回覧を継続的に行い職員の意識の向上を図った
省エネルギー・省資源の推進 (その他)	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間時のエレベーター稼働台数を減らす ・警備巡回時に、使用していない場所の空調スイッチ停止及び照明の消灯実施 	警備日誌にチェック項目追加し、毎日実施する	左記の取り組みを継続して実施
自動車利用における取組	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場に『アイドリングストップ』掲示 	警備日誌にチェック項目追加し、毎日実施する 駐車場内に貼紙を設置し利用者へ周知する	左記の取り組みを継続して実施

指針第2号様式

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 3 年度目（令和 6 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

<ul style="list-style-type: none"> 古紙のリサイクル推進 ※新たに雑紙用の分別ボックス設置 パソコン、iPad等で情報共有し紙の仕様を抑制
--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

<ul style="list-style-type: none"> 空調フィルター清掃状況、空調機グリスアップ実施状況を記録して、確実に実施していることをチェックし空調の効率化に努める 熱源の余熱を最大限利用することで、エネルギー消費を削減
